

論理的に自分の考えを書く力を育成する高等学校外国語科学習指導の工夫 — 理由や根拠を吟味し、考えを形成する活動を通して —

広島県立安芸高等学校 佐伯 明日子

研究の要約

本研究は、論理的に自分の考えを書く力を育成する高等学校外国語科学習指導の工夫について考察したものである。所属校の生徒の実態から、自分の考えを論理的に書くことに様々なレベルで課題があると考えた。そこで、主張に対する理由や根拠を吟味し、考えを形成するための活動を段階的に取り入れた指導を行った。理由や根拠について考えるときに、まずは、母語を用いて、論理の一貫性の視点から、ピラミッドチャートに情報を整理させ、その後、英語で書かれた自分の考えを、吟味の視点を明らかにしたチェックシートを用いて仲間と吟味させた。その結果、ピラミッドチャートを使用した活動は、主張に対する理由や根拠があるか、また、主張と理由と根拠の間に一貫性があるか確認する必要があることを気付かせる上で有効であった。しかし、理由や根拠を吟味する点については、生徒が自分の考えを吟味することができるような授業の工夫が不十分であったことが、論理的に自分の考えを書く力を育成する上の課題であり、今後、改善が必要であることが分かった。

I 主題設定の理由

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説外国語編英語編（平成30年）（以下、「30年解説」とする。）「英語コミュニケーションⅠ」1目標（5）「書くこと」には、日常的な話題や社会的な話題について、「情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようになる。」^①と示されている。社会の変化が加速度を増し、グローバル化が進む中で、多様な価値観をもつ他者と協働して様々な課題に立ち向かうときにこのような力は必要だと考える。

しかし、上記のような力を付けるための取組は所属校においては不十分であり、教科書の内容を扱うときに、知識の習得に重点を置き、内容理解にとどまることが多かった。そこで昨年度、2年次生を対象に、ある単元に関連する話題について自分の考えを書く活動を取り入れ、その直後の定期考查で、読んだことに基づいて自分の考えを問う問題を出題した。この問題の解答を分析すると、考えと理由や根拠に一貫性のないものが63%見受けられた。これをさらに分析すると、生徒が論理的に文章を書く上で、大きく三つの課題があり、一つ目に、本文の内容理解に深まりがなく、考えの根拠を本文の内容に基づいて書くことができていないもの、二つ目に、本文の内容に基づいて書いてはいるが、考えを支えるには不十分な根拠となっているもの、そして三つ

目に、考えを支える根拠はあるが、考えと結び付けるための理由がないものが見受けられた。

論理的に自分の考えを書く上での生徒の課題から、1年次から段階を追って指導する必要があると考え、一つ目の課題の一因である英語力に関しては、今後も継続的に指導していくこととした。本研究では、二つ目と三つ目の課題に焦点を当てて、生徒にとってなじみのある日常的な話題について、読んだことに基づいて論理的に自分の考えを書く力を育成するため、本研究主題を設定した。

II 研究の基本的な考え方

1 英語で論理的に自分の考えを書くとは

（1）論理的に自分の考えを書くための条件とは

鶴田清司（2014）は、自分の考えを述べるために必要な論理的思考力・表現力の育成のために、議論の分析モデルとして知られる「トゥルミン・モデル」に基づいた「根拠・理由・主張の3点セット」を提唱している^①。

「トゥルミン・モデル」が、主張、事実、理由づけ、裏づけ、限定、反証の六つの基本要素から構成されているのに対し、鶴田の提唱する「根拠・理由・主張の3点セット」は、六つの要素のうち、「主張」「事実」「理由づけ」から構成されたものである。

表1 トゥルミン・モデルを構成する六つの基本要素とその説明⁽²⁾

トゥルミン・モデル	
*主張 (Claim)	結論
*事実 (Data)	ある主張の根拠となる事実・データ
*理由づけ (Warrant)	なぜその根拠によって、ある主張ができるかという説明
裏づけ (Backing)	理由づけが正当であることの証明
限定 (Qualifiers)	理由づけの確かさの程度
反証 (Rebuttal)	「～でない限りは」という条件

「根拠・理由・主張の3点セット」について、表1の「事実」と「理由づけ」の説明から、「事実」が根拠に相当し、「理由づけ」が理由に相当すると考えられる。根拠と理由について、鶴田は、根拠とは証拠資料となる客観的な事実・データであり、理由は、なぜその証拠資料を選んだか、それをどのように解釈・推論したかという考え方の筋道を示すものと説明している⁽³⁾。

また、波頭亮（2019）は、ある論理が「論理的である」と認められるためには、論理展開が、科学的正しさや大多数の人々によって正しいと判断・承認され得ることをはじめとする客観的妥当性を有し、かつ、論理展開の文脈が受け手に理解され、納得されることと述べている⁽⁴⁾。

以上のことから、論理的に自分の考え方を書く条件として、以下のことを挙げる。まず、自分の考え方を書かれたものに、主張、理由、根拠が要素としてあり、そのうち、根拠は客観的な事実を示し、理由は、根拠がなぜ主張を支えることができるか説明するものとする。そして、これらの三つの要素からなる論理展開が妥当であり、受け手に理解され、納得されるものであるとする。

（2）英語で論理的に自分の考え方を書くとは

「30年解説」「英語コミュニケーションI」1目標（5）書くことにおいて、考え方を書く際には、できる限り論理の矛盾や飛躍がないよう、理由や根拠を明らかにするなどして、論理の一貫性に注意して、一つの段落の文章もしくは必要に応じて複数の段落で書くことと解説している⁽⁵⁾。

大井恭子（2008）は、段落構成について、日本語の段落構成との違いに触れ、日本語の「起承転結」に対して、英語の場合、「トピックセンテンス」「支持文」「結論文」からなり、トピックセンテンスは、一番主要なテーマが述べられ、支持文は、メインテーマに関わる説得力ある理由や具体的な事例が述べられ、結論文については、トピックセンテンスの言い換えであることが多く、省略されることもありうると説明している⁽⁶⁾。また、論理の一貫性の視

点から、「同一パラグラフ内は同一のテーマに沿った文のみで構成」⁽²⁾され、「transition words（つなぎことば）が有効に使われ、内容の展開、議論が一貫して進められる」⁽³⁾ものであると述べている。

以上のことから、本研究において、英語で論理的に自分の考え方を書くとは、トピックセンテンスには、話題に対する自分の主張、そして、支持文には、主張に対する説得力ある理由や、具体的な事例や客観的事実を含む根拠があること、また、論理の一貫性を保つために、同一の段落内は同一のテーマに沿った文で構成され、つなぎ言葉が有効に使われていること、そして、論理展開が客観的妥当性を有していることとする。

2 理由や根拠を吟味し、考え方を形成する活動の指導とは

（1）考え方を形成するとは

「30年解説」「英語コミュニケーションI」2（2）アの解説に、自分の考え方をまとめると、
「聞いたり読んだりして得た情報を整理したり、吟味したり、既存の知識と照らし合わせて関連付けたり」⁽⁴⁾することとある。広辞苑には、「整理」は「不必要的ものを取り除くこと」⁽⁵⁾、「吟味」は「物事を詳しく調べて選ぶこと」⁽⁶⁾と意味が示されている。つまり、自分の考え方をまとめると、様々な情報から自分の考え方を述べる上で不必要的ものを取り除いたり、必要なものをよく考えた上で選んだり、既存の知識と照らし合わせて関連付けたりする過程があることが分かる。

また「英語コミュニケーションI」2（2）イの解説には、自分自身の考え方を適切に表現するために「情報や表現を整理・吟味し、話したり書いたりするため活用することを通して、聞いたり読んだりして得た情報のうち、どの情報を取り上げるのか、また、どの表現が話したり書いたりする上で活用できるかについて考えさせることが重要である」⁽⁷⁾と示されている。

これらのことから、本研究では、考え方を形成するとは、聞いたり読んだりして得た情報の整理、吟味、既存の知識との関連付けの過程を経て、最終的に、自分の考え方を支えるのに最適な情報や表現を選択し、書くことにつなげることとする。

（2）理由や根拠を吟味する視点とは

本研究においては、考え方を形成する過程における情報や表現の吟味に焦点を当てることとした。そして、ここでの情報や表現とは、理由と根拠を形成す

るための情報や表現とする。理由や根拠を吟味することは、母語で自分の主張を支える理由や根拠について、よく考えた上でよりよいものを選び、それらを英語にするときに、再度、英語の表現でよりよいものを選ぶということとする。

Cottrell.S (2005) は、自分の考えは、頭の中では、明瞭であるように思われても、その考えを書いたときに、読み手がいつも明瞭に理解することは限らず、どの文章が異なった解釈をされるか、または、どの部分が混乱させたり、曖昧なものだったりするかを、書き手自身が認識するのは簡単ではないこと、そして読み手が自分の考えを明瞭に理解するよう、何度も自分の書いたものを確認する必要があると述べている⁽⁷⁾。

理由や根拠について、Cottrellは次のように述べている。まず、理由について、一般的な誤りとして、次の3点を挙げている。主張との間に因果関係が成立していないこと、理由として、論理的であるための必要十分条件を満たしていないこと、そして、言語使用の方法が正確で妥当でないことがある。そしてこれらの誤りに気付くことで、説得力のある論理展開を行うことができると述べている⁽⁸⁾。また、根拠について妥当でないものとして、信頼できないもの、不十分なもの、理にかなった理由に基づいていないものを挙げている。そして、根拠が妥当であるか見極めるために、根拠と扱われる話題の間に関連性があるか、根拠は理由を実証するために必要か確認する必要があると述べている⁽⁹⁾。

これらのことから、本研究における理由や根拠を吟味する上での視点として、まず、主張と理由の間に因果関係があること、次に、理由や根拠を述べる上で、言語使用において、読み手に誤解を与えるような曖昧な表現がないこと、そして、理由を支える根拠が信頼できるものや十分なものであることとする。

(3) 理由や根拠を吟味し、考えを形成する活動の支援の工夫

Gebhard.J (2006) は、書くことが苦手な生徒の傾向として、トピックに関連する自分の考えの創出やまとめをする前にすぐに書き始める傾向があり、このような生徒に対しては、考えの創出、まとめ、そして修正の時点での、指導や練習に時間をかけることが大切だと述べている⁽¹⁰⁾。そこで、理由や根拠を吟味する活動では、母語と英語の二段階で、主張に対する理由や根拠を吟味することとする。

ア ピラミッドチャートを使用した理由や根拠の

吟味

マインド・マップを使用してトピックに対する様々な情報を書き出した後に、図1のピラミッドチャートを使用して、母語で情報を整理する場面で理由や根拠の吟味を行うこととする。英文の段落構成を基にしたこのチャートを用いて、縦の列に、主張、理由、根拠や具体例の順番で、情報を整理させる。この場面では、主張と理由の間に因果関係があるか、根拠や具体例は理由を支えるのに必要であり十分であるかを考えさせることとする。

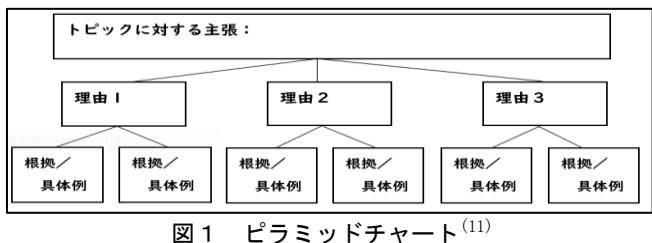


図1 ピラミッドチャート⁽¹¹⁾

イ 理由や根拠の内容チェックシートを使用した理由や根拠の吟味

Gebhardは、下書きを修正する際、仲間同士での読み合いを方法の一つとして挙げており、このときに補助教材として“peer response sheet”的活用を紹介している。このシートは、アドバイスの視点が具体的に示されているものであり、適切なフィードバックができる有効であると述べている⁽¹²⁾。

そこで、本研究においては、図2の「理由や根拠の内容チェックシート」を作成し、生徒にはピラミッドチャートを使用した後で、このシートを使用して英語で書かれた理由や根拠を吟味することを求める。

1 使用している単語・表現をチェックしてみよう。

使用している単語や表現に、曖昧なものはない。(程度や抽象的な意味を表す形容詞)

(例) The country is rich.

2 理由や根拠として取り挙げた「事実」をチェックしてみよう。

「事実」は妥当だ。

(例) He is a good English teacher. It's because he teaches me English.

「事実」に過剰や不足はない。

(例) In summer, it is cooler in Europe than in Japan.

(例) Sushi is popular all over the world.

3 主張に対する理由や、根拠の解釈が妥当かチェックしてみよう。

主張とその理由の間に因果関係がある。

(例) I caught a cold, because I went to the party yesterday.

図2 理由や根拠の内容チェックシート

その際、生徒は、指導者が作成した例文の理由や根拠が主張を支えるものとして妥当なものか吟味す

る練習をし、その後、グループの仲間が書いた英文を吟味する活動に移ることとする。

(4) 考えを形成する活動における他の支援の工夫

ア 生徒の事前アンケート結果から分かる課題

研究対象となる1年次生62名（2名欠席）に対して、自分の考えや意見を英語で書くことが難しいと思うかと質問したところ、62名中、49名が「そう思う」、10名が「どちらかと言えばそう思う」を選び、難しさを感じる生徒が大多数であった。

これらの生徒に対して、複数選ぶことを可として難しいと思う理由を選ばせたところ、以下のような結果となった。

表2 「自分の考えや意見を英語で書くことは難しいと思う理由」についてのアンケート結果

質問に対する選択肢	人数
単語や文法が分からない	53名
どのような文章構成で書いてよいか分からない	42名
アイデアが浮かばない	12名

この結果から、話題に対する自分の考えが浮かばない生徒や、自分の伝えたいことが浮かんだとしても、英語で表現することや文章の構成の仕方に課題を感じる生徒が多いことが分かった。

イ 英語を用いて自分の考えを書くことに困難を感じる生徒の支援

表2で「単語や文法が分からない」と答えた生徒に対する支援としては、指導者が、自分の考えを書くときに必要な文構造や、文章と文章のつながりを示すものとして適切なつなぎ言葉、テーマに沿った語彙や表現を表にしたものを、デジタル教材として作成し、生徒がいつでも活用できるよう支援する。

ウ 自分の考えを書くための文章構成が分からない生徒の支援

表2で「どのような文章構成で自分の考えを書いてよいか分からない」と答えた生徒に対する支援として、段落構成及びつなぎ言葉の有効性を理解させるために、同じ話題について書かれた三つの異なる文章を、「理由のみを示す文」「理由と根拠を示す文」「主張、理由、根拠、及びつなぎ言葉が使用された文」の順番で提示し、主張、理由、根拠の位置や、主張、理由、根拠をつなぐ表現が加わることで、自分の考えが読み手に対してより伝わりやすくなることを理解させる。

次に、段落構成を理解した生徒が実際に自分の考えを英語で書く際、図1のピラミッドチャートを利

用する。この場面では、チャートが自分の考えを英語で書くときの段落構成と同じであることを認識させた上で、チャートのそれぞれの空欄にキーワードを書き、自分の考えを英文で書く時の支援とする。

エ 主張を支える理由や根拠が浮かばない生徒の支援

表2で「アイデアが浮かばない」と答えた生徒の支援として、トピックに対する主張、理由、根拠についてペアやグループで共有させる。また、グループ内で十分な理由や根拠が出ない場合も想定し、デジタル機器を用いて、他のグループの理由や根拠も参考にしながら、自分の考えを創出させる支援とする。

III 研究の仮説及び検証の視点と方法

1 研究の仮説

理由や根拠を吟味し、考えを形成する活動を行えば、論理的に自分の考えを書くことができるであろう。

2 検証の視点と方法

検証の視点と方法について、表3に示す。

表3 検証の視点と方法

検証の視点	検証の方法
1 論理的に自分の考えを書く力を高めることができたか。	プレテスト ポストテスト ワークシート アンケート 振り返りシート
2 理由や根拠を吟味し、考えを形成するための活動は、1の力を高めるのに有効であったか。	ワークシート アンケート 振り返りシート

IV 研究授業について

- 期間 令和3年6月8日～令和3年6月24日
- 対象 所属校1年次（2学級64名）
- 単元名 Lesson 3 Look Cool on Your Streets
- 目標

日本に興味を持っている海外の人々に、日本の魅力を紹介するために、基本的な語句や文を用いて、自分の考えを、主張とその理由や根拠を明確にして書くことができる。

- 学習指導計画

学習指導計画については、別添資料1を参照されたい。

V 研究授業の分析と考察

1 論理的に自分の考えを書く力を高めることが できたか

(1) プレテスト・ポストテストの分析から

表4の評価基準を基に、プレテストとポストテストの結果を項目別に表5～8に示す。プレ・ポストテストの内容は、英語で書かれた手紙を読み、その内容に基づいて問い合わせに対する自分の考えを書くものであり、詳細は別添資料2を参照されたい。

表4 プレ・ポストテストの評価基準

A (十分満足)	B (おおむね満足)	C (努力を要する)
<p>本文の内容を理解し、本文に関連する問い合わせに対する自分の考えを、主張、理由、根拠や具体例を示しながら書いている。</p> <p>理由については、主張の支えとなる適切な部分を本文中から捉え、自分の言葉で書き換えて示している。</p> <p>これに加えて、それぞれの理由に対して、根拠となる客観的な事実や具体例を加えて述べている。</p> <p>伝えたい内容を相手に分かりやすくするためには、因果関係や具体例などを示すつなぎ言葉を有效地で使用している。</p>	<p>本文の内容を理解し、本文に関連する問い合わせに対する自分の考えを、主張、理由、根拠や具体例を示しながら書いている。</p> <p>理由については、主張の支えとなる適切な部分を、本文中からほぼ抜き出す形となっているが捉え、示している。</p> <p>これに加えて、少なくとも一つの理由に対して、根拠となる客観的な事実や具体例を加えて述べている。</p> <p>伝えたい内容を相手に分かりやすくするためには、因果関係を示すつなぎ言葉を使用している。</p>	<p>本文の内容を理解し、本文に関連する問い合わせに対する自分の考えを、主張と、本文を抜き出す形で理由のみ書いている。</p> <p>つなぎ言葉を使用しておらず、文章の流れが分かりにくく。</p>

ア 主張についての分析

プレ・ポストテストにおける主張の分析結果を表5に示す。主張については、別添資料2のプレ・ポストテストのそれぞれの問い合わせに対する答えを主張として評価する。表5から読み取れることとして、主張として見なされない類型D及びEの生徒が、ポストテストでは9名に半減しており、主張を表す最低条件である選択肢を書いた類型Cの生徒が、ポストテストでは8名増加したことが挙げられる。これらのことから、話題に対して、主張を述べることを意識し、書いたもしくは書こうとした生徒が増加したことがうかがえる。

表5 プレ・ポストテストにおける主張の分析結果 ($n=60$)

「主張」の解答類型	プレ テスト	ポスト テスト	数値の 増減
A: 本文を理解した上で主張	4	7	+ 3
B: 本文を理解した上で主張だが内容理解に支障のない程度の英語の誤りがある	20	18	- 2
C: 語彙や文法の誤りにより考えが伝わりにくいが、A, B, Cの選択肢が含まれる主張	18	26	+ 8
D: A, B, Cの選択肢が英文に含まれない主張	0	0	± 0
E: 主張なし	18	9	- 9

1 理由についての分析

次に、プレ・ポストテストにおける理由の分析を表6に示す。類型A及びBの合計人数は、10名増加

している。そして、主張との関連性が推測できる類型Cも4名増加している。論理性を伴わない類型D, E, F及びGの合計人数は、プレテストの35名からポストテストでは21名となり、14名減少した。このことから、主張を支えるものとして理由を書くことが必要であり、その理由を、本文を理解して書いた、もしくは書こうとした生徒が増加したことがうかがえる。

表6 プレ・ポストテストにおける理由の分析結果 (n=60)

「理由」の解答類型	プレテスト	ポストテスト	数値の増減
A: 主張を支えるのに十分な理由	3	7	+ 4
B: 内容を理解する上で支障のない英語の誤りがある主張を支えるのに十分な理由	7	13	+ 6
C: 語彙や文法の誤りにより考えが伝わりにくいため、主張との関連性が使用する表現から推測できる理由	15	19	+ 4
D: 主張との整合性がない理由	4	3	- 1
E: 本文にある満たすべき条件に触れていない理由	5	0	- 5
F: 主張を書いていない理由	2	3	+ 1
G: 理由なし	24	15	- 9

ウ 根拠や具体例についての分析

次に、根拠や具体例の分析結果を表7に示す。類型A及びBの合計人数は、11名増加している。そして、理由との関連性が推測できる類型Cも7名増加している。論理性を伴わない類型D及びEの合計人数は、プレテストの52名からポストテストでは34名となり、18名減少した。このことから、理由を支えるものとして根拠や具体例を書くことが必要であると考えて書いた、もしくは書こうとした生徒が増加したことがうかがえる。

表7 プレ・ポストテストにおける根拠や具体例の分析結果 (n=60)

「根拠や具体例」の解答類型	プレテスト	ポストテスト	数値の増減
A: 理由を支える根拠や具体例	2	1	-1
B: 内容を理解する上で支障のない英語の誤りがある、理由を支える根拠や具体例	2	14	+12
C: 理由との関連性は使用的な表現から推測できるが、語彙や文法の誤りにより考えが伝わりにくい根拠や具体例	4	11	+7
D: 理由との関連性がない根拠や具体例	3	1	-2
E: 根拠や具体例なし	49	33	-16

五 つなぎ言葉についての分析

最後に、プレ・ポストテストにおけるつなぎ言葉の使用に関する分析結果を表8に示す。類型Aは17名増加しており、類型Bは6名増加している。論理性を伴わない、もしくは、論理性を意識して書いていない類型C及びDの合計人数は、プレテストの46名からポストテストでは、23名に減少した。このこ

とから、主張、理由、根拠や具体例を書く際、それらの文章を、つなぎ言葉で結び付けることが大切だと考える生徒が増加したことがうかがえる。

表8 プレ・ポストテストにおけるつなぎ言葉の使用について (n=60)

「つなぎ言葉の使用」の解答類型	プレテスト	ポストテスト	数値の増減
A: 因果関係 (It's because / because / The reason is thatなど) や具体例 (For example など) を表すつなぎ言葉の使用	0	17	+17
B: 因果関係を表すつなぎ言葉の使用	14	20	+6
C: 内容面から因果関係や具体例としてつながりが成立しないつなぎ言葉の使用	14	4	-10
D: つなぎ言葉なし	32	19	-13

2 理由や根拠を吟味し、考え方を形成するための支援の工夫は、論理的に自分の考え方を書く力を高めるのに有効であったか

(1) ピラミッドチャートを使用し、論理の一貫性の視点から理由や根拠を吟味する活動を通じて

Part 1, 2 の学習をした後に授業で扱った自分の考え方を書くためのトピックを表9に示す。それぞれのトピックについて、Jamboardを用いたマインド・マップで情報を共有させた後で、ピラミッドチャートにグループごとに整理をさせた。

その結果、Part 1においては、理由と根拠に一貫性のないものや、根拠の位置に理由があるピラミッドチャートが見られた。そこで、再度、ピラミッドチャートを使用した情報の整理の仕方を、生徒の理由や根拠を利用してクラス全体に示した。そして、授業後はGoogle Classroom上で、いつでも整理の仕方を振り返られるようにした。

表9 授業で扱った自分の考え方を書くためのトピック

パート	トピック
Part 1	Which is better for you to get to know today's fashions, reading fashion magazines or browsing the Internet? Why?
Part 2	状況：あなたは広島の魅力を世界に発信することになりました。What would you like to blog about? Historical places, local food or professional sports? Why?

一連の活動を通じた生徒H, I の2名の変容を以下に示す。最初に、生徒Hの情報の整理の変容を図3, 4に示す。

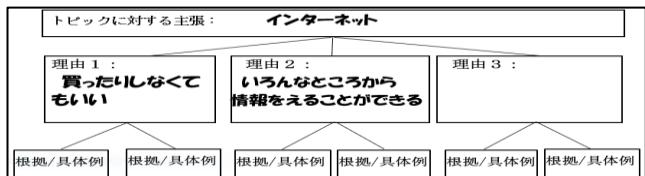


図3 生徒Hが自分の考え方を整理したピラミッドチャート
(生徒が記述したものを稿者が作成し直したもの)

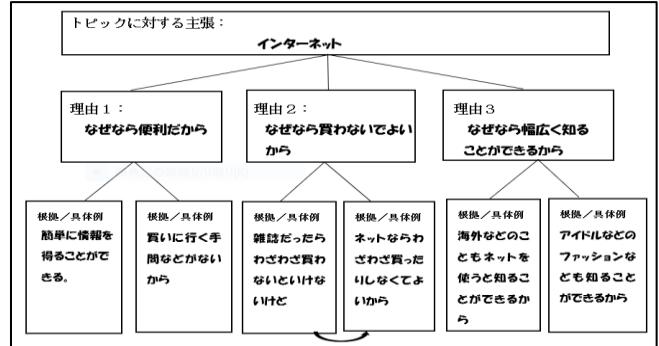


図4 生徒Hが、情報を共有後、自分の考え方を整理したピラミッドチャート
(生徒が記述したものを稿者が作成し直したもの)

図3を見ると、生徒Hが最初に書いた主張に対する理由は、最近のファッショントピックを知るために理由でなくともよいものに考えられる。また、理由に対する根拠が見られない。

しかし、仲間との意見共有や指導者による情報の整理の仕方を学んだ後に、再度、情報の整理をしたところ、図3で示した「いろんなところから情報をえることができる」という理由は、図4に示されるように、情報取得の方法の便利さと情報量の多さの二つの記述に変化しており、その根拠や具体例も主張を支えるものとなっている。また、「買わなくてよい」という理由については、雑誌との比較を表した根拠を述べている。理由2のピラミッドチャートの使用方法や、理由や根拠の更なる吟味について改善の余地はあるが、生徒Hがピラミッドチャートを用いて、自分の考え方を理由と根拠のつながりを意識して再構築したことがうかがえる。

次に、ピラミッドチャートを使用した活動を肯定的に捉える生徒Iのプレテストとポストテストの英文の変容を示す。

I think Plan B is better for your's father and mother. Because local people's house in the countryside is good to learn Japanese home-cook and to enjoy beautiful nature. You're can a lot of learn, so I think plan B is better for your's father and mother. (原文のまま)

生徒Iのプレテストの英文

I think that plan B the best for Lin. I have a two reasons. First, you can wear cute Japanese clothes. For example, kimono and Hakama. Second, you can eat local food. For example, oyster pan and lemon cakes, that Miyajima is a historical buildings. So, you can visit historical buildings. So, I think that plan B the best for Lin. (原文のまま)

生徒Iのポストテストの英文

生徒Iは、事後アンケートで、今回の授業を通じて、自分の考え方を書くことができるようになった理由として、「ピラミッドチャートなどを使用して、

うまく文章を作ることができたと思うから」と述べている。本生徒の英文を比較すると、プレテストにおいては、主張と理由の間の論理の一貫性が弱く、理由に対する根拠や具体例は示されていなかったが、ポストテストでは、それらの問題点が解消されており、さらに、つなぎ言葉の使用により、文と文のつながりが明確になり、読み手が理解しやすいものとなっている（下線部参照）。また、この生徒は、メモ欄にピラミッドチャートを使用して情報を整理していた。生徒Iの記述とテストの結果から、論理的に自分の考えを書く上で、ピラミッドチャートの活用が有効であったことがうかがえる。

（2）理由や根拠の内容チェックシートを使用して理由や根拠の内容を吟味する活動を通じて

Part 2の内容に関連したトピックについて自分の考えを書いた後で、「理由や根拠の内容チェックシート」を活用して、生徒間で読み合う活動を行った。ワークシートに書かれた仲間へのアドバイスの内容としては、単語のスペルや文法の誤りの指摘、理由や具体例が書けていない生徒に、それらを書くようにアドバイスするもの、そして、「分かりやすい」などのコメントを書いたものが大多数であったが、仲間が何を書きたいか内容を理解した上で、さらに英文が伝わりやすくなるような文法や語彙のアドバイスも見受けられた。今後、このチェックシートをさらに有効活用するには、扱う話題を考慮して、何を視点に英文を読み吟味すべきか指導者の明確な指示が必要であり、生徒に、吟味の練習時間を十分に確保することの重要性が分かった。一方で、理由や根拠を吟味する活動を通じて、主張を支える上で、より良いものを選ぶという意味での吟味までは到達していないが、シートの項目を意識して英文を修正したと考えられる生徒もあり、その記述を一例として以下に示す。

ア 理由や根拠に見られる語彙レベルの変容

生徒Jは、グループの仲間から、理由や根拠に関する具体的なアドバイスはなかったが、自分自身で根拠に当たる一文を読み直し語彙を改善している。

I would like to blog about local food. It's because local product is oyster in Hiroshima. For example, we can eat fried oyster and pot dish of oyster in shop. (原文のまま)

生徒Jが理由や根拠を吟味する前の英文

I would like to blog about local food. It's because local product is oyster in Hiroshima. For example, we can eat fried oyster and pot dish of oyster in restaurants. (原文のまま)

生徒Jが理由や根拠を吟味した後の英文

日本語では、食事をする場所を「店」と言うことがあるため、最初は、カキ料理を食べる場所をshopと書いたと思われるが、吟味の活動後には、英語の表記として適切な語彙であるrestaurantと修正しており（下線部参照），これは、「理由や根拠の内容チェックシート」1を意識した結果であると考える。

イ 理由や根拠に見られる内容レベルの変容

生徒Kは、この活動を通じて、不十分だった理由や根拠を改善している。活動の前に書いた根拠は、日本語の料理名をローマ字表記したものだけであり、海外の人々を読み手として意識した説明としては不十分だった。しかし、活動後に、ローマ字表記の食べ物の名前に説明を加え、料理名を英語で表記しており、これも「理由や根拠の内容チェックシート」1を意識した結果であると考える。

I would like to blog about local dishes. For example, First, It's very delicious. Okonomiyaki and kakinodotenabe. Second, It's use local food. (原文のまま)

生徒Kが理由や根拠を吟味する前の英作文

I would like to blog about local dishes. I have 3 reasons. First, there are very delicious. For example, Okonomiyaki, and a sweet called Momijimanju. Second, food cooked with local product. For example, oyster dish and lemon jelly. Third, I would like overseas people to know about history of Okonomiyaki. (原文のまま)

生徒Kが理由や根拠を吟味した後の英作文

3 生徒が論理的に自分の考えを書く力を高めるためのその他の支援の工夫は有効であったか

（1）段落構成を学ぶための英文比較

研究授業の第一次で、II 2 (4) ウの英文比較を行った後に実施したアンケートから、生徒のおよそ90%が、自分の考えを相手に伝えるためには、主張、理由、根拠や具体例が必要であり、それらの要素が主張、理由、根拠や具体例の順序で段落に書かれることも理解したことがうかがえた。

（2）トピックに対する自分の考えの創出につまずく生徒に対する協働学習の有効性

ワークシートの分析から、母語でも自分の考えを書いたり整理したりすることに困難をきたす生徒が2割程度いたが、協働学習を通じて英文で自分の考えを書こうとする様子が見られた。また、自分の考えや意見を英語で書くときに、ペアやグループ活動は役に立つと思うかという質問に対して、肯定的な回答をした生徒は、事前アンケートの90%から事後アンケートでは、95%に増加した。その理由として、事前アンケートでは、38名の生徒が、英語の分からぬところを教えてもらうことの良さを示す内

容を書いていたが、事後アンケートでは、16名に減少し、アイデアの創出時の助け合いを理由に挙げた生徒が、8名から18名に増加した。これらのことから、英語で自分の考えを書くことに協働学習が有効であることがうかがえた。

(3) 自分の考えを英語で書くことに対する生徒の意識の変容

自分の考えを英語で書くことが難しいと思う生徒は事前・事後アンケートの両方とも95%おり、難しさを感じる生徒が依然として非常に多いことがうかがえる。

これらの生徒に、その理由を聞いたところ、「どのような文章構成で書いていいか分からない」と考える生徒は、事前アンケートの35名から、事後アンケートでは9名減っているが、「単語や文法が分からない」と考える生徒は、53名から49名と4名しか減っておらず、英語力が、自分の考えを書く上で大きな課題となっていることがうかがえる。

一方で、自分の考えを書くことができるようになったかという問い合わせに対しては、51%の生徒が、できるようになったと感じている。この結果から、本研究を通じて、書くことができたと実感する生徒が半数以上おり、生徒のこの前向きな捉えは、今後も、英語で自分の考えを書く活動に継続して取り組む上で重要なことだと考える。

VI 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

論理的に自分の考えを書く力を高めるために、理由や根拠を吟味し、考えを形成する活動は、プレ・ポストテストの分析結果、及び、ワークシートやアンケートの分析結果から、検証後に、自分の考えに、主張、理由、根拠の間に一貫性が必要であることを意識して考えを形成することを理解させることについて、有効であったと考える。

2 今後の課題

今後、生徒が論理的に自分の考えを書く力对付けるには、母語と英語で書かれた理由や根拠の吟味をする際、吟味の視点を明確に押えることと視点に沿った吟味の練習の充実が必要であると分かった。これらの問題点を整理して、今後の授業に生かすこととする。そして、今後、日常的な話題から社会的な話題を扱うことに発展する中で、さらに論理性を高めるために、理由を支える根拠や、根拠と主張をつ

なぐ理由についても自分で十分吟味できるよう、外国語科の授業の工夫をすることはもちろん、他教科との連携も図り、横断的に取り組むこととする。

【注】

- 鶴田清司(2014)：『論理的思考力・表現力を育てる言語活動のデザイン中学校編』明治図書pp. 18-40に詳しい。
- 鶴田清司(2014)：前掲書p. 20を、稿者がまとめて作成したもの。
- 鶴田清司(2014)：前掲書p. 21に詳しい。
- 波頭亮(2019)：『論理的思考のコアスキル』筑摩書房pp. 39-41に詳しい。
- 文部科学省(平成30年)：『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説外国語編英語編』開隆堂pp. 26-28に詳しい。
- 大井恭子(2008)：『パラグラフ・ライティング指導入門—中高での効果的なライティング指導のために』大修館書店pp. 22-23に詳しい。
- Stella Cottrell(2005)：『Critical Thinking Skills: Developing Effective Analysis and Argument』Palgrave macmillan p. 168に詳しい。
- Stella Cottrell(2005)：前掲書p. 121に詳しい。
- Stella Cottrell(2005)：前掲書pp. 130-133に詳しい。
- Jerry Greer Gebhard(2006)：『Teaching English as a foreign or second language: a teacher self-development and methodology guide』The University of Michigan Press pp. 223-224に詳しい。
- 波頭亮(2019)：前掲書p. 96の図を参考にして、稿者が作成したもの。
- Jerry Greer Gebhard(2006)：前掲書p. 227に詳しい。

【引用文献】

- 文部科学省(平成30年)：『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説外国語編英語編』開隆堂p. 27
- 大井恭子(2008)：『パラグラフ・ライティング指導入門—中高での効果的なライティング指導のために』大修館書店p. 22
- 大井恭子(2008)：前掲書p. 10
- 文部科学省(平成30年)：前掲書p. 40
- 新村出(1991)：『広辞苑第四版』岩波書店p. 1427
- 新村出(1991)：前掲書p. 710
- 文部科学省(平成30年)：前掲書p. 41